行政視察報告書

令和８年１０月１３日～１５日

議席番号１１番　三田忠男

今回は、自分としては、初めての両委員会合同行政視察を行った。

南海トラフ大地震が叫ばれている折、伊豆半島と地形の似ている、能登半島震災の教訓を伝授いただき、伊豆市の防災に反映できる知見を得ようと合同で行った。

３日間で４自治体の視察をお願いした。

１３日に七尾市、１４日に穴水町、珠洲市、１５日志賀町であったが全体を通じて、強く心に残ったことから報告していく。

発災当時の新聞記事によると『福祉避難所開設２割』『施設破壊、職員も被災』『要配慮者受け入れ断念』『広域支援、平時に整備を』『災害関連死２割越障害者』『ボランティア始動も進まぬ受け入れ宿、交通事情が壁』『女性や乳児の安心なおざり　避難所備蓄進まず　「緊急対応は男性」転換を』『静岡県ボランティア協会　穴水町に足湯で被災地支援　心のケアも欠かせない』等々見出しが並んでいた。

１．石川県全体の人的・ライフライン被害

死者７４４人うち関連死５１６名、行方不明者２名　負傷者１，２７７名、住宅全壊６，１６８棟、住宅半壊１８，７２４棟、断水約１１万戸５月３１日解消、停電約４万戸３月１５日解消、４２路線８７か所通行止め、奥能登全体が孤立状態、

２．七尾市からの教訓

① 市の職員が参集できたのはおよそ３割：職員をあてにはできない。全員が参集したのは４日後
② 支援物資の受け入れの原則を定めておくこと：業者の活用の必要性
③ 災害は想定外。その想定外に対して、臨機応変に対応していくことが大事
④ 指示待ちになるな。自らが何をなすべきかを考えて行動を！！

３．穴水町からの教訓

① 受援体制の準備不足：知識や経験が不足：活動場所や宿泊場所の確保
② 避難者の把握困難：避難場所以外の避難者の把握が困難
③ 発災当初から迅速に対応できる体制の整備と強化：確実に引き継ぎできる体制を整備、各対応班別ハンドブックの整備
④ 町と飲食店組合・ボランティアなどが連携した新たな炊き出し：セントラルキッチン
⑤ 災害廃棄物の広域処理：総合的・計画的な搬出計画の立案：安価な搬出方法を可能な限り優先する
⑥ 復旧・復興状況の見える化：市民だけでなく市外にも発信を

４．珠洲市からの教訓

① 市役所も避難場所になってしまう。
② 備蓄品がすぐなくなる。粉ミルクや哺乳瓶が不足した。
③ 凝固剤簡易トイレを備蓄する。スターリンクを整備、発電機、ソーラーパネルの整備による停電への備え。
④ 顔の見える関係性の日々構築、支援・受援のワンチーム化、一人ひとりに寄り添った田大海渡行動を！

５．志賀町からの教訓

① インフラ耐震化・受援体制の整備は、人口密度や規模によらず共通課題：道路寸断と水道管の老朽化で孤立・断水が長期化
② 要支援者対応が重い課題に：アウトリーチの必要性
③ 人口減少化での復興という構造的課題：震災は減少を加速させるため復興計画は地域経営計画と一体で描く必要がある。

６．まとめ

道路網が寸断されると支援が止まる。道路網整備の重要性と水路、空路方の支援の道の確保も整備したい。

福祉避難所の整備は広域化を図らないと機能が果たせないのではないか。同じ被災地では建物も、人材も、備品も確保できないことが伝わったきた。

あらゆる場面を想定した行政組織の整備体制と、応援自治体との受け入れ態勢と事前連携が、とても大切と思います。これが整えば、支援の整備の進展が早まると思います。

水道管の耐震改修工事は、必須であるが資金に限りがあります。伊豆市では、比較的自然水や河川の水がきれいなため、ろ過装置の整備を進めていき断水に備える必要があると感じました。井戸水では水脈が変われば使用できないことも起こりえます。まして停電になればなおさらです。

昔から言う事に嘘はない。『備えあれば患いなし』『万全を期すに越したことはない』『遠くの親戚よりご近所さん』

全ての自治体が丁寧な分かりやすい資料を作成していただき、心より感謝いたします。

今後の議会活動に取り入れていきます。ありがとうございました。